

講義名	対1)情報社会論			授業形態	
担当教員	佐藤 彰宣	開講期・曜日・時限	前期 木曜日 3時限		
		単位数	2	履修開始年次	2年生

主題と概要

情報化社会の到来が語られて久しい。では、インターネットやSNSなどの新たな情報技術（デジタルメディア）は、現代社会のなかでどのように生み出され、人々にいかなる影響を与えてきたのだろうか。本講義では、多様な事例を通して、現代社会と情報技術（デジタルメディア）の関係を社会学の視点から読み解く。

到達目標

- ・近現代社会における情報技術（デジタルメディア）の特性を論じることができる。
- ・情報技術について、社会学の概念と理論を理解し、説明することができる。
- ・情報技術（デジタルメディア）と結びついた社会現象を社会学の視点から分析することができる。

提出課題

授業内で レスポン課題、 期末レポートを課す。
レスポン課題については、毎回の授業内で課し、提出をもって出席とする。なお授業日数の3分の1以上を欠席した場合は、成績対象外となり「放棄」として扱う。いずれの課題においても厳格（出典を表記しないネット記事の書き写し・コピペ）は不正行為とみなす。他の人の課題を写す/写させる行為も不正行為である。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

レスポン課題として寄せられたコメント・質問を、毎回授業内で適宜紹介し、応答する。

評価の基準

成績評価は レスポン課題（30%） 期末レポート（70%）によって行う。
これらにおいては、（1）授業理解度（授業で扱った概念や理論について理解・説明できているか）、（2）分析・考察（授業で学んだ概念や理論を用いて、特定の現象の原因や仕組みを論理的に説明できているか）を問う。

履修にあたっての注意・助言他

日常生活のなかでも情報技術や情報社会に関する情報や知識を積極的に集めておくことで、授業内容についての理解もより深まることが期待される

教科書

.使用しない。

参考図書

.デジタルメディアの社会学。	土橋臣吾ほか	北樹出版	9784779305559
.メディア社会論。	辻泉ほか	有斐閣	9784641150553

その他

適宜レジュメを配布する。上記以外の参考文献は自らのなかで別途案内する。

授業計画

1. 授業の導入：「情報社会」、「デジタルメディア」とは何か
2. 情報メディアの系譜（1）：総力戦体制におけるコンピューターの誕生
3. 情報メディアの系譜（2）：冷戦構造でのインターネットの実用化
4. 情報メディアの系譜（3）：インターネットの社会空間
5. 環境としてのデジタルメディア：生活環境とデジタルネイティブ
6. インターネットと情報収集：フルメディアとブッシュメディア、集団分極化
7. ウェブのアーキテクチャ（1）：「人気投票」としてのページランクと「萬宇宙」
8. ウェブのアーキテクチャ（2）：個人に最適化された情報消費
9. インターネットと政治的公共性：メディアと民主主義、世論と輿論
10. SNSと流産：パニックのメディア史（関東大震災からオイルショック、コロナ騒動まで）
11. 監視社会と情報システム（1）：メディアと権力関係
12. 監視社会と情報システム（2）：データとしての監視
13. スマートフォンと人権関係：情報社会の社会関係資本
14. SNSとつながり：「弱い紐帯の強さ」と「極限線」
15. 授業の総括：技術決定論を超えて情報社会を読み解くための視点
受講生の関心、授業の進度などに応じて一部内容を変更することがある。また授業内容に関する時事的な話題も扱う。

授業形態（アクティブ・ラーニング）

ア：PBL（課題解決型学習）	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション、ディベート	エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション	カ：実習、フィールドワーク
キ：その他（A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

情報社会に関する社会学の体系的な知識を身につけるためには、講義内容についての復習（レジュメおよび参考書に目を通す）をぜひ行ってほしい。また学生の主体的な取り組みとして自学自習を常に受け付ける（週に4時間以上）。講義内容に関する新聞・雑誌記事についてのレポート、関連書籍の書評など自習の成果の提出を受け付け、評価に加点する。様式は自由であるが、必ず出典を明記すること。

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

現代の情報社会のあり方やその成立過程について考える本科目は、卒業認定・学位授与の方針として示されている「流通科学大学の学生が卒業時に共通して身につけておくべき資質・能力」のなかでも、特に「情報収集力」、「情報分析力」、「課題発見力」などを養うことにつながる。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

レポート課題の提出などは、ポータルサイト「Ryuka Portal」を通して行う。また授業内では情報社会の動向をより分かりやすくイメージしてもらうために、レジュメだけでなく新聞資料や映像資料も積極的に使用する。情報技術と社会がどのような関係にあるのかを意識しながら、新聞資料（情報社会に関連する新聞記事）、映像資料（情報社会に関するドキュメンタリーや映画など）を視聴することで、講義内容への理解がより深まることが期待される。

実務経験の有無及び活用

備考